

# 柏市図書館のあり方（案）

いま社会は、人生100年時代を迎えようとしており、人工知能(AI)・ロボティクス等の新しい技術が日常生活や企業等に浸透し始めるなど、社会の大転換期を迎えています。

これを乗り越え豊かな人生を生きるために、生涯にわたって学び、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことの必要性が一層高まっています。さらに、将来的に想定される人口と税収の減小を踏まえた、持続可能な図書館運営も求められます。

この「柏市図書館のあり方」（案）は、こうした時代を見据え、長期的視点から、柏市の図書館を運営するための理念や方針、理念実現のための考え方を示すものです。

今年度末の策定を目指し、市民の皆さまと一緒に検討を進めてまいります。

## 【基本理念】

### 学びと活動の循環による、ひとづくりの拠点



## 【基本方針】

### 1. 生涯を通じて学び、生きる力・知識・技能を取得できる図書館

未来を担う子ども達が、予測困難で複雑な社会においても、幸せに生きる力を養うことや、自信につながる「自己有用感」を獲得することを支援します。また、社会の大きな変化のなかで、誰もが何度でも学び、知的刺激を受け、自己の能力を高められる知の拠点として機能します。

### 2. 学び合いと社会的な活動につながる、ゆるやかなコミュニティを育む図書館

少子高齢化、人口減少、価値観の多様化・複雑化など、社会を取り巻く環境は急速に変化しています。その中で、仲間をつくるきっかけとなる場や、仲間と学び合い、活動ができる環境の重要性はさらに高まっていくものと考えます。図書館は、市民が地域社会の一員として社会参加できるよう、つながり、そして共に学ぶゆるやかなコミュニティづくりの拠点となり、ひとづくりを支援します。

### 3. シビックプライドとパブリックマインドを育む図書館

図書館は単独で存在するものではなく、地域とのつながりにおいて、その機能を発揮するものと考えます。図書館は、潜在力を秘める市民の知的な活動を支えることで、積極的に地域とつながります。そしてコミュニティ活動の原動力となる「シビックプライド（地域への愛着・誇り・ふるさと感）」と、まちや地域のために役立つことをしようとする姿勢である「パブリックマインド」を育む場所となります。

## 【理念と方針の実現のための機能】

### 1. 未来を担う子どもたちが幸せに生きる力をつける機能

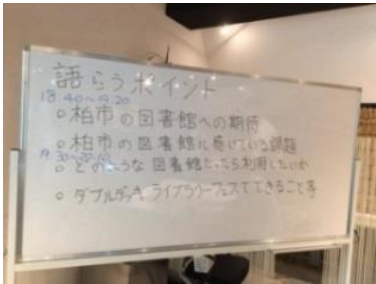
子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものとし、人生をより深く生きる力を付けていく上で欠くことのできないものです。

図書館は、子どもに読書体験を提供し、発達や学びの連続性を踏まえた支援をすることにより、読書習慣や読解力を育みます。また子どもの読書習慣の獲得には、家庭の協力が不可欠です。保護者に対しては、子どもの読書活動への理解や関心を高める役割を果たします。

その他にも、多世代交流や子ども司書活動などを通じて、自分が必要とされていると感じる「自己有用感」の獲得や、遊びと体験の要素を通じて、考える力や工夫する力を養うことを支援します。

### 2. 生涯にわたる学びを支援する機能

長寿化した人生では、生涯を通じて学び続け、必要な新しい知識や技能を取得できる環境があることが重要です。また、困難を抱える家庭への読書環境の提供や、労働市場の構造変化により、学ぶ必要に迫られた際にも、学ぶ環境を提供するなど、図書館は学びのセーフティネットとなることも求められます。複雑で予測困難な社会の中で、図書館は、何度でも学べる場となり、人生の可能性を広げ、生きる力や幸せをつかむ力を養う環境を提供します。



### 3. ゆるやかなコミュニティ形成機能

本市では、多様なコミュニティ活動が主体的に行われ、新しいことに挑戦するアクティブな市民や事業者が多く活躍し、まちや地域の活力や賑わいを生み出しています。

地縁的なコミュニティだけでなく、プロジェクトごとに関心のある市民や事業者が、必要に応じて集まるネットワーク型コミュニティも次々に生まれており、これらを生み出す「ひと」や、地域を支える「ひと」こそが、図書館が目すべき「柏らしさ・柏の特長」だと考えています。

しかし、コミュニティの中にいる人同士の連絡・連携は強固ですが、個々のコミュニティ同士のつながりは十分ではありません。また、ライフスタイルに起因するコミュニティへの参画不足や特定のコミュニティへの帰属を忌避する市民の存在（「控えめな市民」）は、本市においても見受けられます。

分離・点在するコミュニティ同士やアクティブにコミュニティ活動に参加する市民だけでなく、そうではない「控えめな市民」も参加できる「ゆるやかな紐帯」を支える基盤の一翼を図書館が担います。

### 4. シビックプライド（地域への愛着・誇り・ふるさと感）の醸成機能

自分の住む地域を知ることが、地域への愛着や誇りにつながり、地域を良くしようとの思いにつながります。特に、子ども達が、生まれ育った柏市を「ふるさと」と感じてもらえるよう、子ども達が地域を知る活動を図書館は支援します。また、地域の活力には子どもの存在が不可欠であり、地域と子どもの交流機会の創出にも貢献します。

## 【理念実現の考え方】

### 1. ひと：利用者

これからは、行政だけが公共の役割を担うのではなく、市民や事業者など地域の様々な主体が、公共の担い手として活動することが求められます。そのためにも、まちや地域のために役立つことをしようとする姿勢である「パブリックマインド」を養うことが大切です。社会教育施設である図書館は、市民の主体的な学びと交流を通じて、このパブリックマインドを育む機能を担います。

### 2. ひと：職員

これからの図書館職員には、地域と市民をよく知り、新しい知識を積極的に吸収する姿勢が不可欠だと考えます。従来からのレファレンス能力だけではなく、関係機関や市民との関係性を構築するコミュニケーション能力やコーディネーション能力、広報能力、上位計画を踏まえた政策立案・予算編成・折衝能力、実行力、組織のマネジメント能力を持つ人材が必要です。また、今後は紙の資料だけでなく、デジタル資料も取り扱うことになるため、ICTリテラシーを持った人材が求められ、また、利用者にITの知識や技能を伝える能力のある人材が必要です。

司書の資格を持つ職員だけでなく、これら多様な能力を持つ職員や、様々な分野で経験を積んだ職員を配置し、総合的な組織力の向上を目指します。

### 3. もの：施設

図書館は、世代をこえた多様な市民が学び合い、共有することで、知的好奇心が生まれる場や学んだことの実践の場となります。賑やかで活気ある知の拠点である図書館は、コミュニティや市民の交流の場や、知的活動の成果を伝える場としても機能します。また、図書館の資料とインターネットの情報を併用して調査ができ、パソコンを使って成果をまとめられる環境も必要です。

### 4. もの：資料

図書館の特長は、網羅性と専門性であり、資料同士の関係性を発見できる物理的な空間を持つことだと考えます。文芸書に偏ることなく、様々なジャンルの資料や、個人では買うことのできない資料を揃え、必要な調査や学習ができる蔵書構成を目指します。

また、資料の提供だけでなく、講演会などの企画により市民の学びと交流を支援します。

### 5. こと：運営(学校図書館連携・支援)

図書館は学校図書館の支援も重要な業務です。近年、調べ学習など学校図書館は子ども達の学習に不可欠なものとなっており、学校図書館にない資料でも、必要な時にすぐに手に入るよう、分館と学校図書館の配送ネットワークの一本化と連携を進めます。

また、子ども司書活動や、調べ学習等の子ども達の学習成果の発表の場として分館を活用し、地域交流・多世代交流を通じて、子ども達の「自己有用感」の獲得を目指します。

さらに、子ども達への切れ目ない読書活動の支援や地域との連携のため、学校図書館と分館の融合を検討します。

### 6. こと：運営(地域資料の保存と活用)

柏の地域資料を保存し、活用することは、柏市でしかできない事業です。特に柏市の発展と重なる近現代の地域資料は、いま急速に失われています。この近現代から現在日々生み出されている資料を保存し、伝えていくことは、本市の図書館が積極的に担うべきものと考えます。

また、本市には様々な分野に詳しい市民が多く住んでおり、その知的創造活動によりつくられた資料は、柏市の貴重な地域資料となります。市民と協働した取り組みやデジタルアーカイブの検討が必要です。

## 【課 題】

### 1. 今後厳しくなる自治体運営

「人口減少（生産年齢人口減小）や経済縮小による税収減」と「民生費や公共施設の更新費用の増大」により、自治体の財政は将来的に厳しさを増していきます。これからは、人口増加と経済成長により増加する税収を原資に、行政サービスを拡大できた時代の考え方からの転換が必要です。

施設の更新・統廃合・長寿命化などを検討する際には、将来の人口動態や財政規模を踏まえて、「あれもこれも」ではなく、持続可能な計画とすることが不可欠です。

また、日々の運営に関しても、定期的に業務の評価と見直しを行い、ICT化とデータに基づいた運営により、定型業務については徹底した業務効率化を進め、専門業務や新しい機能への取り組みに割く時間を増やしていかなければなりません。

### 2. 複本の見直し

年間の総貸出数のうち上位の5,000タイトルが一般書では21%、児童書では55%となっており、また、その複本冊数は、一般書で31,332冊、児童書で69,147冊となっています。このように、本市の図書館は人気のある文芸書等の複本を多く所蔵している状況であり、他市との比較でも多くなっています。

そして、この貸し出しや配送業務に図書館の経営資源の多くが割かれており、その他の重要な業務に注力できないことから、見直しが必要だと考えます。

### 3. 図書の分散

現在の蔵書92万冊のうち、22万冊が7箇所の書庫、58万冊が17箇所の分館に分散しています。分館には市内に1冊のみの図書も多く配架されており、例えば3万6千冊の蔵書がある南部分館では、その内の1万2千冊の図書が市内に1冊のみとなっています。図書が分散していることによって、網羅性・専門性・資料の関係性の発見など図書館としての特長が発揮できていません。また、図書の分散により配送業務も非効率となっています。

### 4. 分館機能の再定義

市内には貸出機能が中心の200㎡程度の小規模な分館が17館あり、新たな機能を担う余地がありません。持続可能で、これからの社会と地域に求められる分館機能について検討が必要です。

## 【市民協働でつくる図書館】

本市の図書館利用カードの登録率は年々低下を続け、現在2割を下回っており、市民の図書館離れが進んでいます。これからの図書館は、様々な背景を持つ多くの市民に利用されることはもちろん、さらに社会のために役立つ存在となり、図書館を利用することによって生まれる価値が、市民と地域のために不可欠であるということが、広く市民から評価されることが求められます。

また、市民に必要な情報は、資料の中だけにあるものではありません。市民一人ひとりが持っている知識や経験が、他の人に循環し、受け継がれ、その知識が活用されることも重要です。市民の積極的で主体的な参画により、図書館は人と人や、人と情報をつなげる接点となります。

そのためにも、市民も図書館の所有者・運営者であるという認識のもと、行政と一緒に図書館をつくり上げていくことが求められています。図書館はレファレンスなどのサービスや運営の情報を広く市民に発信・共有するとともに、市民・事業者・コミュニティ・首長部局など関係機関と積極的に連携します。

柏市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒 277-8503 千葉県柏市大島田48番地1 沼南庁舎3階

電話： 04-7191-7393

柏市ホームページ： <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/280700/p046994.html>

Facebookページ： <https://www.facebook.com/kashiwa.futurelibrary/>

Twitterページ： [https://twitter.com/kashiwa\\_future](https://twitter.com/kashiwa_future)